

北海道命名 150 年 記念事業！インフラ歴史ツアー第 1 弾！！ ～五感で感じよう！小樽の歴史～

北海道開発局 小樽開発建設部 小樽港湾事務所

今年、平成 30 年(2018 年)は松浦武四郎が「北加伊道」を含む 6 つの名前を明治政府に提案し、それを基に「北海道」と命名されてから 150 年目の節目の年です。積み重ねてきた歴史や先人の偉業を振り返り、感謝し、道民・企業・団体などと一体となり、節目の年を祝うため、様々な取組を行っています。北海道開発局も「北海道みらい事業(北海道 150 年事業)」として、これまで私たちの暮らしや、北海道の産業を支えてきたインフラをより身近なものとして実感いただけるよう、インフラ整備の歴史をたどりながら、その効果を体感できる「インフラ歴史ツアー」を実施しました。

第 1 弾は、北海道の経済を支えた「小樽港」と鉄道「手宮線：明治 13 年(1880 年)～昭和 60 年(1985 年)」の歴史をたどるツアーです。

今から約 150 年前の明治初頭、小樽港は札幌に近いことから、北海道の内陸部と道外を結ぶ要地となりました。その後、我が国のエネルギー需要に対応するため、北海道の石炭の供給が国家的課題となり、幌内炭鉱(現在の三笠市)から小樽に至る鉄道と小樽港の整備が進められ、小樽港からの安定した石炭の積み出しが実現しました。手宮線は北海道で初めて開通した鉄道で、石炭輸送のみならず、旅客輸送でも活躍しています。物資流通の拠点として栄え、道内経済の中心地となった小樽には金融機関が集まり小樽銀行街が形成され、「北のウォール街」と呼ばれていました。

石炭の運搬から始まった鉄道の歴史と、当時、最新の技術で整備された小樽港北防波堤に代表される港湾

整備の歴史を学び、その後の海運業の発展がもたらした小樽の繁栄などを実感できるツアーとなっています。

「みなとの資料コーナー」見学

小樽運河を代表とする小樽港ですが、2 つの土木学会選奨土木遺産がある歴史的に古い港です。一つは、明治 30 年(1897 年)にコンクリートを用いた日本初の本格的な防波堤となる「北防波堤」であり、小樽築港事務所の初代所長である廣井勇の指揮の下、建設されたものです。もう一つが明治 45 年(1912 年)に竣工した「斜路式ケーソン製作ヤード」です。第 3 代目所長の伊藤長右衛門が、軍艦の進水を参考に滑り台方式でケーソンを進水させた世界初の施設であり、ケーソン技術の適応範囲を広げ、我が国の近代港湾の発展に貢献した施設です。

小樽港湾事務所から、これら土木遺産の紹介、港湾業務艇による港内見学により、小樽港の歴史や役割をガイドしました。

ツアーは、6 月 24 日、7 月 21 日、8 月 25 日の 3 回を開催、各回 20 人の募集でしたが、全て満員となりました。北防波堤を間近に見たり、海上から小樽港を見る機会も少ないことから、参加者からは好評の声をいただきました。また、追加ツアーとして、10 月 13 日には、「北海道を支えた土木インフラ事業の歴史道・港・川・そして農地」の開催が決定しております。

みなさんも小樽の歴史を五感で感じるため、ぜひ一度、小樽にお越しください。

